

公開形式：同人上映
ジャンル：青春映画

進路相談なんか いらない！

提出日時：2022/08/22

評価者：沼田やすひろ

評価日時：2022/08/21

評価場所：エクストラOffice

総合評価

作品タイトル

クオリティランク:F

コスト感:高い

特殊な撮影やCGはないが、
一定地域での四季を撮影
しなければならないため、
コストがかかる。

(※地域在住者の自主映画ならば可)

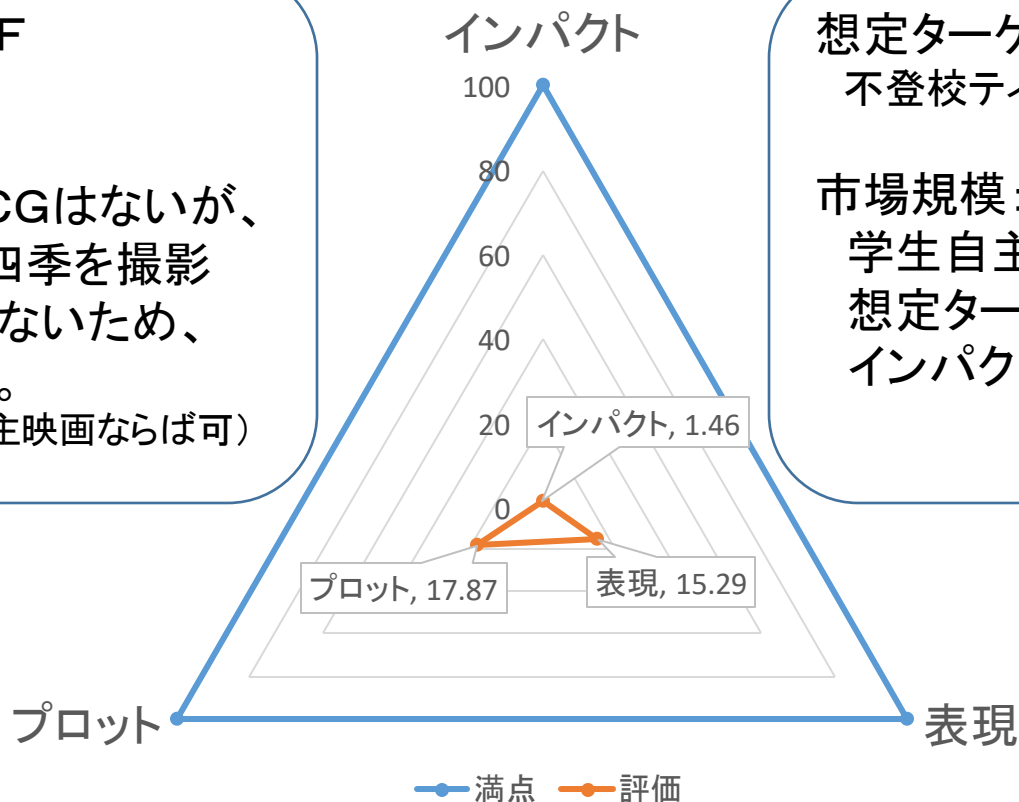
想定ターゲット:

不登校ティーンエイジャー男子

市場規模:

学生自主映画程度

想定ターゲットに対しても
インパクトは低い。



投資評価と条件:

投資を回収することは困難。

制作者に対して特別な思い入れのある篤志家のみが出資すべき作品。

展開の可能性

関連事業展開の可能性

- 現シナリオではネガティブな印象しか与えないが、ポジティブな地域の魅力や景観、行事を盛り込んでいけば地域広報のツールとして使えるかもしれない。

事前話題展開の可能性

- インパクトのあるビジュアルが存在せず、話題性のあるキャスト、スタッフが参加しなければ事前の話題展開は困難。

鑑賞後の満足感の可能性[クチコミ]

- 現シナリオでは鑑賞後の満足感は得られない。キャラクターの止揚的变化はなく、達成感も皆無。抜本的なシナリオの改稿が必須。

商品性を生み出すための制作条件

キャスティング案

- ティーンエイジャー男子に人気のキャストが必須。
現シナリオの表現ではキャラクターに魅力がないため
演じるモチベーションを持ったキャストは見つからない。

スタッフ案

- 特に表現力の必要な描写は無く、基礎力があれば充分。
学生の自主製作でかまわないのでは。

ロケーション案

- 舞台となっている地域の魅力的なロケーションがない。
「一年間を描く」というムダなコストを廃して、「夏」に限定し
しっかりロケハンをおこない、シナリオを改稿すべき。

作品のテーマ性とターゲット適合

作品テーマとジャンル

- 「惰性で生きる虚無的な青年が攻撃的な友人と刹那的な女友だちと出会い、別れ、仮想敵に攻撃をしかけるが、何も変化しない」青春映画。

ターゲットへの適合

- ターゲット「不登校ティーンエイジャー男子」は、映画というメディアに対して、あまり興味を持っておらず、メッセージ性の弱い本作は、ターゲットに刺さることはない。

倫理とレーティング

- 「レイプ」や「性器描写」などがありレーティングは「成人」指定となるが、ポルノというほどの性描写の魅力はない。
- 「反社会的いたずら」は魅力もテーマ性もない。

【総論】想定インパクト分析

未見性

- 「未見性」のある表現はまったく無い。

見た目

- ロケーションの魅力が描かれておらず、
キャラクターの魅力もない。
キャスト次第だが、演じたいという俳優はいないだろう。

プロット・インパクト

- 漫然と私小説のように書かれたシナリオで、
技巧的な要素はまったくなく、魅力にとぼしい。

【総論】想定表現分析・1

わかりやすさ

- 一般的な虚無的キャラクターはわかりやすいし、淡々と進む日常もリアルでわかりやすいが、魅力には結びついていない。

アート性

- 皆無

良刺激/悪刺激

- 良刺激は地域の自然描写などにわずかにあるが、「レイプ」「いじめ」など解消されない悪刺激が多く、相対的に気分の悪い視聴感となってしまう。

【総論】想定表現分析・2

表現の魅力

- 虚無的で受動的な青年の日常が淡々と表現され、鬱々とした気分を積んでいくが、それらの解消を表現できずに終わるため、たいへんに不満足な作品となってしまう。

【総論】プロット型とプロット評価

プロット型：ドキュメンタリー型

【プロット分析】

不必要な一年間の展開を描いているため冗長な六幕構成。主体キャラクターが何度も入れ替わり、第13フェイズ「満足」のない不完全な13フェイズとなっているため、描こうとするテーマがまったくわからなくなっている。

主人公の感情表現が希薄であるため、感情移入できず全インシデントに対して冗長感が強い。

【改良案】

一年間の設定を、「魅力的な夏祭り」を中心とした「青春の一場面」に絞って、その他をバツサリ切り捨ててしまい、「主人公が一夏の経験によって13フェイズ変化」をするように改良し、視聴者に「満足感」を与える。

【総論】プロット分析・1 [インシデント]

インシデントピッチ [5分25秒]

インシデントの魅力とリアリティ

- 全編を通じて、「普通の情景」を描いているためリアリティは高いが、結果がすぐにわかってしまう、ひとつひとつの事件に魅力がまったくなく、冗長なシーンの連続となってしまう。
- 通常は3分間以内にひとつのインシデントの設置が必要であるが、平均して5分25分にひとつの事件しか起きないために、冗長感が強い。

【総論】プロット分析・2 [キャラクター]

キャラクター性

- 主人公が無個性で虚無的。
- 対抗者、協力者は衝動的で反社会的。
- キャラクター性はとても低い。

セリフ

- 魅力的なセリフは無い。
- キャラクターたちは、衝動的な要求を述べているだけ。

感情移入

- どのキャラクターも無個性で虚無的、衝動的で反社会的なために感情移入できない。

【総論】プロット分析・3 [感情・情感]

感情対比表現

- 全編通じて「虚無的」で「無感情」であり、ときおり現れる「衝動的」な感情が対比として際立つが、「怒り」表現が多く、他キャラクターへの「大切」につながる「感情対比」が皆無なため、感情移入度の低いプロットとなっている。

ユーモア性

- 皆無

泣ける展開

- 皆無

【総論】プロット分析・4 [環境の魅力]

本作の持つ環境の魅力

- 現代の地方出身の青年を取り巻く無味乾燥とした環境を描くという意味では、本作は良くできている。
- エンタテインメントとして魅力的な環境はまったく描けていない。
- ドキュメンタリーとして、「地方出身の青年の虚無」を描くように全編を改良すれば、「現代日本の抱える問題」が魅力として提示できるようになる可能性は高い。
- 能力の高くない青年の居場所、仕事はどこにあるのか...かつての「家＝仕事」であった時代には、「家族であれば大人の居場所があった」というテーマにまで踏み込んでほしかった。